

令和4年度
第2回朝日地域振興懇談会

会議録（概要）

期日：令和5年3月17日（金）

場所：朝日庁舎 大会議室

令和4年度 第2回 朝日地域振興懇談会会議録 (概要)

- 日 時 : 令和5年3月17日 (金) 13時30分から15時40分まで
- 会 場 : 朝日庁舎 大会議室
- 出席委員: 工藤幸雄、難波金一、亀井栄一、宮崎正、大瀧博勝、亀井晴美、今野めぐみ、渡部祐子、渡部巖、宮崎ちよ 計10名
- 欠席委員: 小野寺太、小野寺健、難波一之、遠藤恵子、伊藤比呂貴
- 市側出席職員
 - 【庁舎】朝日庁舎支所長、総務企画課長、市民福祉課長、産業建設課長、総務企画課 上野地域まちづくり企画調整主査
 - 【本所】企画部政策企画課 佐藤専門員
企画部地域振興課 深町主事 計7名

一次 第一

1. 開会

※ 委嘱状の交付は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、名前の読み上げで代用

2. あいさつ

難波会長あいさつ

鶴見朝日庁舎支所長あいさつ

3. 協議

- (1) 第2次鶴岡市総合計画基本計画の中間見直しの進め方について
- (2) 第2次鶴岡市総合計画前期基本計画の朝日地域の評価・検証について
- (3) 令和5年度 朝日庁舎の主要事業について
- (4) 今後の朝日地域の取組において重視すべき点について
- (5) その他

4. その他

5. 閉会

1. 開会 13時30分（進行 総務企画課長）

2. あいさつ

難波会長あいさつ

鶴見朝日庁舎支所長あいさつ

3. 協議

会長 それでは協議 (1)、(2)について事務局より説明をお願いします。

(事務局説明)

会長 ただ今事務局から説明がありました。皆様からの質問、意見については、(4)で一括して発言をして頂きたいと思います。よろしくをお願いします。
それでは引き続き、(3)について事務局より説明をお願いします。

(事務局説明)

会長 事務局から(1)、(2)、(3)まで説明がありましたので、これらを踏まえて、(4)の今後の朝日地域の取組において重視すべき点についてご発言をお願いします。

委員 朝日地域はいつになっても「雪」と「バス・交通」と「少子高齢化」、この三つはどうしても避けて通れない大きな課題だと思う。

色々な事業を庁舎で取組んでもらっているが、やはり市営バスは「ぼんぼ」営業休止の関係で利用者が減っている状況にあるが、市営バスは無くしてはならないと思う。去年も新たな利用を探して運行ルートの変更を考えたわけだが、これからもそれらを含めて、もしくはコミュニティセンターの事業などでの利用もあると思うので、あわせて市営バスの運行充実をお願いしたい。

雪対策について、お年寄りから雪で困ったと今年も2回ほど電話があった。この「助け合い玄関前除雪支援事業」について2件ほど行ってもらったが、今年は非常に雪が多かったのが助かったという話が聞こえているので、除雪事業にも力をもっと入れてもらえればと考えている。質問として、克雪住宅支援事業について以前は結構利用者が多く、翌年に回して利用者から我慢してもらっていたが、最近の利用状況をお聞きしたい。

産業建設課長 克雪対策について、令和3年度はどちらも実績がなし。令和4年度は屋根改修1件、除雪機械購入1件である。

委員 集落の中でもお知らせはしているが、コロナで頻繁に集まることができず、周知不足もあったかと思う。年度途中の9月か10月頃に庁舎から克雪対策の事業募集チラシが入っていたが、もう少し早く出してもらえれば有難い。

委員 私の方から3つ質問したい。

1点目、資料6の令和5年度朝日庁舎の取組方針について、重点施策として「地域を支える人材育成」とある。やはり人材が非常に重要だと思うが、このデジタル人

材育成とは、具体的にどういう人を育てるのか。

2点目、朝日庁舎の主要事業68番「朝日地域農村コミュニティ整備広域化支援事業」について、私も多面的機能支払交付金を担当しているが、事務作業が非常に厄介だと感じている。非常に良い事業だと思うので本当にお願ひしたい。詳しく説明していただきたい。

3点目、直接関係がないかもしれないが、森林を活かす観点から令和6年度より相続の義務化が始まるため周知してもらい、相続していただいて森林に興味を持っていただくような施策ができないものか。

総務企画課長

1点目のデジタル人材の育成について、朝日地域は中山間地に点在する集落を抱えている地域であり、道路などのハード整備により物理的な部分は解消されつつあるが、デジタルを活用して距離感を縮めたいという考え方を持っている。高齢化率が高い状況で、実際にデジタル化と言っても使いこなせる人がどのぐらいいるのだろうかということ、主要事業の12番「朝日地域共創プロジェクト支援事業」により、パソコンやスマートフォンを使える人を育成していくもの。使いたい時に身近な所に使い方を教えてくれる人がいる環境があることで、デジタルの活用が広がっていく。地域の中でデジタルを教えられる人を育成することで、気軽に聞くことができる環境が作られ、地域の繋がりが生まれると、例として振込詐欺の防止などの効果も出てくる。地域の皆さんからデジタルを使っていただいて有効性を実感していただくために、試験的ではあるが指導を行うデジタル人材の育成に取り組んでいく。

産業建設課長

2点目の朝日地域農村コミュニティ整備広域化支援事業について、多面的機能支払交付金と中山間地域直接支払交付金は書類作成などの事務量が大幅膨大であると認識している。地域の方々が高齢化により事務処理が出来ないことを理由に交付金をいただくのを諦めるという課題に対し、事務委任を受けられる体制を広域協議会で整えるもの。多面的機能支払交付金組織は16活動組織、中山間地域等直接支払交付金は26集落協定があり、各代表の方々から参画していただき、県・市に提出する実績報告や申請書作成の事務委任を広域協議会に行っていただくというイメージでいる。各活動組織の方々のご意向もあるので、今後協議会立ち上げのための話し合いの場を設けたいと考えている。具体的にどのような方向で進められるか、皆さんのご意見をお伺いしながら進めていきたい。対象農地が減らないように、朝日地域の8割程度はカバーできるような協議会になればと考えている。

総務企画課長

3点目の森林の相続義務化について、朝日庁舎で単独で取り組む部署がないが、国で法整備されることは伺っている。全国的に取り組む事項と認識はしているが、市全体の取組の具体までは承知していない。国の施策であるため、情報提供という形で取り組んでいくことになると考えている。

委員

少子化、高齢化、人口減少が全国的にかなり進んでいる中で、この地域も全国から見るとかなり急速な高齢化、少子化が進んでいると思う。問題として考えているのは、2025年に第一次ベビーブームの人達が75歳を迎える、それから子供たちが少子化で出生数も少ない、そのような中での将来的な展望からすれば、5年後にはこういう人口構成になる、10年後にはこういう人口構成になるというのがあらかじめ予見できるようなシステムもあろうかと思う。この現状で、今までのような手法で

果たしてこの地域が維持できるのか。自分もこの地域で事業を営まさせてもらっているが、これから5年10年、もっと長く地域で様々な生業をやっていく上で、非常に気がかりで心配されるところである。今後の人口構成の見立てで、例えば10年後には人口の年代構成比について分かれば教えてほしい。

総務企画課長

今は資料を持ち合わせていないので、現状をお話させていただくと、令和2年度のデータで、14歳までが全体の9%、15歳から64歳まで47.8%、65歳以上の方が43.1%となっている。過去を振り返ると、60年ほど前、昭和45年では0歳から13歳まで23.1%、65歳以上が10.4%であり、急激に高齢化率が進んでいる実態にある。委員からのお話に関して社会人口問題統計研究所での計算上の数値データがある。後程細かいデータをお出ししたい。

会長

基本計画を作っていく上で、今、大変重要な発言だったと思う。そのような意味で、出来ればそういう資料を、委員皆さんに後で行き渡すように指し示して、配布をお願いしたいと思う。

総務企画課長

共有させていただく。

委員

説明いただいた計画への質問とは違ったものになるが、このまま少子高齢化、人口減少がどんどん進んでいくと、当然、農地を耕す人も少なくなり、朝日地域と同じ状況の地域が全国にも多くあると思う。限界集落とか、他地域の状況を見聞きする活動はされているのか。その中で、朝日地域と同じような現状で非常に良い対策をとっている所があり、そこをモデルとして勉強しながら朝日地域に当てはめていこうかというような活動がされているのかお聞きしたい。例えば、極端な話だが、人口減少であれば移住促進や、農耕地を使う人がいなくなるのであれば農耕地のレンタルのような取組をしている地区もあると聞いたことがある。行政の方で調べられている所があるか、お聞きしたい。

総務企画課長

全国的な話になるが、過疎対策に関しては各地域の状況について情報提供を受けている。モデル的な取り組みなどインターネットやホームページで公表しているものがあり、移住定住により活性化を図っている他自治体がある。鶴岡市の過疎対策は朝日地域に限ったことではない。移住定住担当は市地域振興課にあり各地域で取組を行っている実態にある。加えて、朝日地域では地域おこし協力隊が、鶴岡市で初めて平成25年から2名入っていただき、現在も朝日地域の大鳥に暮らして活動をされているように、数は少ないが、外からの人材として移住定住を図る取組も行っている。ご意見いただいたことについて、できるだけ我々も情報収集しているつもりではあるので、政策に活かしていきたいと考えている。

委員

民間の会社を65歳ぐらいで定年し、あと10年位はまだ体が動ける、団塊世代の次の世代の前期高齢者人口は非常に多い。ちょうど私もその世代だが、鶴岡市にいる同級生が日中何をしたら良いか分からず、時間を持って余している人が多くいる。まだ動けるので健康に気を遣い、車で金峯山まで行き1~2時間歩いて健康を保っている人が非常に多いと聞いている。そのような人たちに、例えば耕作地をレンタルして仕事をしてもらうとか、別の視点で色々行政が考えていただければと思う。動ける人が沢山いて何をしたらいいか分からない状況があるので、行政からやってもらいたいこと等の案内を考えていただければと思う。

委員

質問として、人材育成の取組で「ワゲショ」というチームがあるが、会員数を教えてもらいたい。活動についてどの程度若い人たちが知っているか、どのような形で周知しているのか。せっかく良い団体があるので広く知らせていけたらと思う。コミュニティセンターの活動について、自分が子育てしている頃にもこのような活動があったらいいなと思うことがたくさんあった。近年、講演会や講座、ミニコンサートなど色々と企画してもらい、大変良いと思っている。夏休みには子供たちのために勉強する場を提供したり、秋以降は受験生の中学3年生を対象に塾を開催したりと、子供たちにも保護者にとってもとても良い企画だと思う。クリスマスにはレコード鑑賞もあったが都合がつかずに行けなかった。地域の人達に声をかけたところ、関心の度合いは人それぞれで全然違ったが、様々な分野で企画してもらえたら一層良いと思う。今、行っている企画は準備や手配等大変だと思うが、継続して行っていただきたい。

湯殿山スキー場のリフトがリニューアルについて、去年は第2リフトが動いていないと聞き不便だと思っていたが、今年はリフトが完成したとのことで、スキー場に行っている人からはとても良いという声が聞こえてきた。コストとか予算など大変かと思うが、利用者が満足できる形になれば良いので、リフトの完成は本当良かったと思っている。

総務企画課長

「ワゲショ」については、朝日中央コミュニティセンターの事業として市が支援する形で取組んでいる。経過としては、我々の世代で青年団がなくなり地域に青年組織がないとか、働き方も多様化して若い世代が集まるきっかけがないことで、若い世代のネットワークづくりを目的に、緩やかなつながりのある地域づくりの取組として、先ほど紹介いただいた「ワゲショ」を組織していただいた。現在の会員は25名ぐらいで活動していると聞いている。皆さんに分かりやすい事業としては、熊出地内でのLEDイルミネーションとして「おかえり」と点灯させた活動をしている。これは、朝日地域に帰ってきた時に暗いため、イルミネーションを点灯したらどうだろうという発想があり、実際に活動を行ったもの。今のところは、自分達で取り組みたい内容を考えて活動しており、行政側が積極的にあれをやってくださいとお願いするものでもない。これからメンバーを増やしてもらいながら、自分達自分達のためになる活動を進めていただきたいので、行政側でも支援していきたい考えがあり、皆さんに頑張っていただきたいと考えている。難波会長の方から補足ありましたらお願いしたい。

会長

行政側から一生懸命頑張って支援していただいているので、若い人たちは、それなりの繋がりや一生懸命やっているが、なかなか仲間が増えていかないという現状がある。それは社会情勢も含めて、働く環境もそれぞれ違うのでなかなか難しいと思いつつも、自分たちで考えることをやり遂げる形で取組んでいるので、若い人たちにはパワーがいっぱいあると感じている。皆さんからも、若い人たちがいたら、そんな活動をしている人たちがいることを教えてもらえればありがたい。

委員

今までも何人かの委員から出たが、人口減少は鶴岡市に限ったことではないが、特に山間地であるほど少子化、高齢化が進んでいて、これからもっと幅が広がっていくだろうと予想される。鶴岡市は東北で一番広い面積の自治体であり、過疎地ほど

高齢化が進んで地域が散在しているということになり、1人当たりの行政経費は必ずかかる。そこで、地域振興課の方が今日おいでになっているが、鶴岡市街で100円かかるものが朝日では130円かかるかもしれない。それを理解してもらわないと、根本的な問題として成り立たない。鶴岡市全体の施策だからということで、均一的な物の考え方がよく求められる。それでは、住みなれたところに住み着いていくことは不可能なことである。まずその点について地域を理解して欲しいと思う。契約の段階で同じ道路を作るにしてもかかる金額は全然違う。失礼だが、地域としては非常に効率が悪い。しかしながら、そこに住んでいる人の生活をどう守るかという視点からすれば、同じ投資額では生活は守れないということを理解して欲しい。朝日地域には議会議員がいない。従って住民の声を代表する場がないわけだが、この場が住民の声の一つの場とするならば非常に恐ろしい場だと捉えている。言いたいことは、朝日庁舎で働く人たちがこの地域をくまなく見ていただいて、住民の声をどのような形で吸い上げて、どう行政に反映していくか、ここで働く人たちの力量だと思う。正直に言うと、住民の声は色々な場面で行政に届くことは数が少ない。ぜひ多面的に住民に働きかけをして、あるべき姿を求めていただきたい。朝日地域に住む若い人たちがいないということについて、特に高学歴であればあるほど外へ出て行ってしまいが、それもやむを得ない。なぜならば帰ってきて働く場所がないから。外に出ることを止めることもできないのでどうにもならないが、他に要因はたくさん考えられる。若い人がここで住み続けられる環境を作れるかということが大事だと思う。全体的な中で、今出てきた話ではないが、商工業の振興の文面がこの中に出てきていない。朝日には工業関係や建設業をはじめ様々な商工業があるが、農業と観光とその二つは出てきても工業部門がない。ここでも雇用している事業主が相当多くいるので、商工業の振興がこの全体の中で見えてこない。これからますます人材不足で困ってくる。地元には色々な仕事があって、企業に就職すれば企業も残るわけなので商工業の振興策に力を入れても良いのではと思った。朝日には素晴らしい企業があるので、その方々の持続可能な環境づくりや支援を行政としてやっていくべきではないか。非常に地域でも頑張っている企業もあり、継続して人材確保ができ、地元の人ができるだけ地元でも働く場があり、それが地域の振興、活性化になればなお良い。

委員

地域に若い人がいない、仕事場もないということはもちろん皆が分かっていることではあるが、コロナ禍になったからこそ、ネット環境があれば地域でもオンラインで仕事ができる社会になった。朝日に住みながらオンラインで仕事ができる環境になったが、いま、民間の光回線サービスがやっと朝日地域にも来て、ネット環境が大分充実してきたので、そういう面をもっと宣伝ができないかと思っている。雪がいっぱい不便ではあるが、決して悪いところばかりでなく、物が買えないと言うがネットで注文すれば何でも届けてくれるし、私としてはさほど不便さを感じていない。結構大変な時は地域で助け合いもできて、良い所だと思う。何とか、今いる人たちが盛り上げていけたらいいと思う。

しばらくコロナでイベントができなかったが、雪まつりがあった時はウェルカム雪だるまとして、朝日地域でも何年前には色々な企業の方々が、皆でたくさん雪だ

るまを作り盛り上がったが、コロナや雪不足で2、3年やっていなかった。今年はずっとたまに雪が降ったので、私も雪だるまづくりに参加したところ、小学生から、何で雪だるまをいっぱい作っているのかと聞かれて驚いた。小さい子たちは、雪まつりでこの時期に皆で雪だるまを作るイベントがあるとことを意外に知らない。地域にこのようなイベントがあるのに知られていないと思った。最近イベントを行ってなかったので仕方がないが、これから盛り返さないといけないと思った。マンネリ化では駄目なので、この機会をチャンスと捉えてイベントのやり方を考えていくと良いと思う。

SNSでの宣伝は効果があって、今は花畑など素晴らしい風景があれば写真を取りにも訪れる。人が訪れると地元産品も売れるという好循環が生まれると思う。ワゲショや高校生かだんこの会とか、みんなで一緒に何かやれたら地域が盛り上がると思う。今までずっと低迷してきた中で、ここ何年かコミセンがとても楽しそうな企画をしている。何かに取り組んで一気に人が来るものではないが、長い目で見ていかないとできないものだと思う。この間、会議に出席したとき、東北公益大の武田真理子先生ともお話したが、コミュニティ関係は今やったからすぐに答えが出るのではなく、時間がかかるけれどもじっくり何とか失速しないように頑張っていきたいと思つた。何か自分も協力できることはやっていきたいと考えている。最近、落合周りのカラスが非常に気になるが、何か気にされているか。

市民福祉課長
委員

落合のカラスのことについて状況を確認させていただき対応する。

来年度の新規事業、重点施策の中で期待したい項目があった。資料7、P4の30番、朝日地域健康増進支援事業と31番、温泉源泉利活用トライアル事業について、新たな取組を考えているようだが、温泉が身近に利用できなくなったので、広く試行的な形で温泉を取り込んだ事業をこれからもできるような考えがあれば良いと思つた。先日、21日に健康の里ふっくらで行われるイベントチラシを見た。単発的でも良いと思うので、何かイベント開催で少し人を呼び込んだら活発になるのではと思つた。もう1点、資料6の令和5年度の重点施策で、先ほど地域内デジタル人材育成の取組を考えているようだが、先ほど他委員からもあつたように、これからは若い人だけでなく高齢の方もデジタルを身近に扱えるような環境になっていくと感じている。その人達が最初からもう無理だと毛嫌いするのではなく、なかなか周りに人はいないけども、デジタルを活用すれば便利になるという自信に繋がればと思う。そのような教室や講習などを開催していただけると良いと感じた。

市民福祉課長

来年度の主要事業の30番かたくり温泉ぼんぼでの介護予防・健康増進事業については、集まっていた皆さんの集いの場やコミュニティの場として継続して取組んでいく事業として、来年度も温泉利用を組み合わせたいと考えている。31番かたくり温泉源泉利活用トライアル事業実施の先には、温泉運営や地域振興に資する事業に展開できればと考えており、地域の皆さんの協力をお願いしたい。ご紹介のあつたイベントについては、3月21日健康の里ふっくら全館と駐車場を使用して「こんにちはタクト」というイベントが開催される。施設等をお貸しして実行委員会で行う催しとして3月上旬に定期配送でチラシが全戸配布されたかと思う。チラシがない方は市民福祉課に備え付けてあるので、お帰りの際にでも申し付けい

ただければと思う。そのようなことをきっかけに、今まで健康の里ふっくらへ訪れたことがない方に対して、施設や朝日地域を知っていただけるきっかけにもなると思う。お誘い合わせの上、おいでいただきたい。

委員

私からは質問というよりお願いになる。総合計画の基本計画の中に医療環境の整備とあるが、私は在宅介護をやってきた中で大変助かったことがあり、お医者さんがプライマリーケアという専門分野だけでなく、眼医者になってみたり皮膚科医になってみたりと、相談にのってもらい助けていただいた。その場を離れられないので、すぐにその処置をしてきてくださいと言われても、動けない人を動かすのは大変な負担になるという経験をしたので、総合計画に記載された医師確保について期待したいと思う。これから山間部は高齢化が進み、自分で自分の体をどうにもできなくなるような、移動手段も困るような状況になると思うが、家族が負担にならないような、あまり負担を重みに感じないような環境であって欲しい。私は本当に訪問看護と訪問医療に助けられた。たまたま訪問医療をしてくださったドクターが本当に色々悩みを聞いてくださり、すぐに駆けつけ対処してくれたことで、ここにいって良かったと思った。病院に連れて行かなければならず、眼科に連れて行かなければならずという、介護の負担が大きくなる状況が増えると思うので、これらの課題に対して計画を進めていただければありがたい。上田沢診療所と大網診療所は建物の老朽化も出てきている状況で、これからどの程度継続してもらえるか不安がある。今後について、どの辺りまで考えているのかお聞きしたい。

市民福祉課長

プライマリーケアということで紹介があったが、まさに大網診療所、上田沢診療所の医師は総合病院の専門医という形ではなく、かかりつけ医として何でも相談に乗ってくれる一次医療の大きな役割を果たしている。朝日地域はH29から開業医がない状況にあり、これからもその役割を果たしていきたいと考えている。診療所についても地域で果たす役割が大きいので、建物修繕などに対応し、移動手段として患者輸送も継続するなど、今後も各診療所の設置を続けていきたいと考えている。

委員

もう一点、先ほど他委員から、子供たちが雪まつりを知らず、なぜ雪だるまを作っているのか分からないということについて、教育的な問題になるが、朝日地域は自然や森林が豊かで本当にいい所だが、私たち自身がここに住み慣れてしまうと良い面を忘れてしまうところがあると思っている。資料に六十里越街道とか以東岳とか朝日連峰の大鳥池とか記載あるが、大鳥鉦山や大泉鉦山の跡地のところに、自然で遊べる場所を作ってもらってはいるものの、四季を通じてそこで活動しているのかどうか疑問である。利用者がどのくらい来て、冬の利用はどうなっているのか。“兎巻き”をしたとは書いてあるものの、その他には利用がなかったのか気になった。雪が多くて嫌だとか移動手段が怖いとかバス料金が高いとか、団体行動するにはバス利用がすごく難しく、冬はなかなか足を延ばしてくれないとか理由があると思うが、克雪地域を見ると、ただ雪を掘ったり雪投げしたり、大人が楽しみながら子供も楽しめるような環境を作っている所がたくさんある。特に最上の方は、雪を楽しむことを知ってほしい。今、雪上運動会をやっているのは大網？大泉？この情報を流したら、朝日でも雪を楽しんでいることで少し関心を持ってもらえる。子供たちにもっと雪を楽しむことを知ってもらいたい。

昔からの郷土芸能や郷土の文化歴史について、みんなが一斉に集まる産業文化まつりでも何でもいいので、その時に昔のパネル展を行って、こんな歴史があったとか、昔の人が頑張ってきたことが分かる資料を展示すれば、大人も子供も一緒に楽しみながら理解できる。コロナ禍の中で形を変えながらイベントをやっつけていかなければいけない。少子化、高齢化になり、地域に住む人たちが誇りを持って進んでいけるような、歴史を掘り起こすようなことになるかもしれないが、昔、地域にこのような先祖達が住んでいて、こんな素晴らしい所があったと感じてもらえる資料を展示してもらえたらと思う。朝日庁舎の中にきっとあると思うが、昔の資料を展示してもらえたら地域をもっと知ることができ、自分たちの地域に誇りも持てるだろうし、興味を持つことも出てくるだろうと最近思うようになった。最近の芸文協もだんだん高齢化していく中で、このようなやり方もあるのではとお願いをしている。

委員

資料をひと通り見て、地域の現状とそれぞれ課題については資料の通りであると思った。その中で、総合計画について若い人達はどう感じてきたのか、鶴岡市の総合計画として意識したのだろうか。若い人達の意見と言う割には、本当に若い人達の考えていることを手に入れたのか。地域の未来図にとって重要となる若い人たちとの意見交換の場をどうやって作ったらいいのだろうか。先ほど「ワゲショ」についての質問や意見があったが、そういう人達とどんな形で意見交換していったらいいかと考えたところである。コミセン事業でも、そのような取り組みはできるが、行政サイドでも若い人達との意見交換の場を、市の総合計画を知らせながら行っていくことは大変重要なことだと考えている。

地域の主な産業である農業について、国の政策である水田活用の直接支払交付金の見直しがまだ決まっていないが、指し示された5年間は水を張らなければ水田と見なさない、という方向にほぼ行くようだ。例として、条件不利地域での農地の貸し借りや集積等について大きな影響が出てくるのではないかと、また、地域の中で耕作放棄地が増えていくという影響も出るような感じがしている。集落によっては農業施設の水路や様々な農業施設の維持管理が今以上に、大変になると思っている。産業建設課での新規事業にもあるが、地域の農地の未来を描く地域計画の策定が来年度から始まるということで、市も準備をして動き始めているということだが、この機会を捉えて農家だけでなく自治組織も含めた集落の悩みや課題を浮き彫りにしながら、集落の未来図を作っていくことが大事だと思う。地域のリーダーが短期間で変わる所もある中で、地域の方向性がしっかりしていれば、地域づくりについて住民が悩むことなく進んでいけると私は思う。今後は、集落支援員や市職員のコーディネート力が果たす役割が大変大きくなると思っている。ぜひこの事業については力を入れてやって欲しい。また、地域運営組織（RMO）として総合的な地域コミュニティ組織を立ち上げ、多様な交付金活動で地域づくりにあたられるようになれば良いと考えている。農水省の方でもその事業を進めているので、先進地域の事例を研究しながら、ぜひ取り入れていければと思っている。中山間直接支払交付金や多面的機能支払活動交付金を自治組織と協力しながら有効に使う形で活動している組織もあるが、そのような事例も捉えながら、問題点を出し合い広域化を進めてもらえればと考えている。ただ、この間、隣の集落協定と広域化について話し合

いをしたところ、今までやってきた事業のスタイルが違っており、広域化によってどのような効果が出るかなど、自分達にとって有効になるかが課題だと言われた。お互いの利害関係も単純ではないと感じながら、行政の指導や支援を受け進めていけたら良いと思っている。広域化にならなくても、それぞれの活動の事務処理等も受けていただきながら、ぜひ中山間地域を支援していただければ良いと考えている。デジタル化で誰でも使えるということについては、この間、うちの集落でワークショップを行った時、ボタン一つで物を頼めれば良い時代になれば店屋がいらないとも言われた。ある人からは、中央地域では無医村で診療所もなく、どこかで健康相談が受けられるといいのではないかと意見が出され、例えばコミセンで、との発言があった。医療相談でデジタル化が進めば、医者との関わりもあるが、電子カルテを同じ物が使えれば、今の健康状態に合わせた健康相談もできるのではないか。わざわざ市街地まで行き受診しなくても済むというのがメリットだというデジタル化があってもいいと思った。資料を読みながら、地域の人たちとどんな話をしたかと思いつながらの発言とする。

委員

先ほど若い人の意見を聞いた方が良いと話があり、大変良いことだと思う。先般、中央地区自治振興会で地域づくりのワークショップが行われ、その結果が中央コミセンに貼り出してあった。私は全部写真に撮り見ているが、ここに住み続けていくために、今は心配ないが年を取ったら雪が困ることが多く書かれていた。雪の問題がボトルネックであり、社会福祉協議会アンケートでも雪と交通確保などが、問題にされていたので、雪対策が大事だと思う。ただ、朝日の方は非常に除雪が良く、どこの人から聞いても評判が良い。私たちも日常生活で非常に助かっている。情報提供についてデジタル化も進み、スマホがあれば何でも買えるし何でも見られる。これから講習会などを行って普及させていくことも当然でしょうが、なかなか馴染めない人もたくさんいる。高齢者にとっては紙が一番いいわけで。地域ではKCTを使った情報提供をすとか、もっと活用をしても良いと思う。せっかくある施設なので、もっとKCTの加入率を増やす方を考えてもらいたい。地域の問題でもあるが、時々、行事が終わってから回覧が届くこともある。

その他 なし

4. その他

総務企画課長

他に皆さまから何かございますか。
無ければ閉会のご挨拶を渡部副会長にお願いしたいと思います。

副会長

皆様お疲れ様でした。これを持ちまして、朝日地域振興懇談会を閉会させていただきます。
ありがとうございました。

(終了 15時40分)